

福島県立図書館
東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 1

福島県立図書館では、平成23年3月に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う県内の被災・復興についての関連資料を「東日本大震災福島県復興ライブラリー」として、平成24年4月28日より開設しました。これまでに3000タイトル以上の資料を収集・整理し、皆様にご活用していただいております。

震災から2年の節目を迎えるにあたり、当館職員が「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の資料を実際に読み、感じたことを皆様へお伝えしようと、ブックガイドを開始することにしました。

このブックガイドが皆様の参考になれば幸いです。どうぞご活用ください。

■原子力問題・過去の原発事故

『津波と原発』

佐野真一／著 講談社 2011.6 LS543.4/S5/1

第一部「日本人と大津波」、第二部「原発街道を往く」の二部構成からなります。そのなかの『なぜ「フクシマ」に原発は建設されたか』は、とても分かりやすくまとめられ参考になります。震災からわずか3ヶ月後の発行ですが、丁寧な現地取材とインタビュー、そして徹底して文献を調査することで、大変説得力のあるルポルタージュになっています。

『フクシマの正義:「日本の変わらなさ」との闘い』

開沼博／著 幻冬社 2012.9 LS543.4/K5/2

『「フクシマ」論』で原子カムラができた経緯を明らかにした著者が、原発事故以降の動向をまとめた一冊。いわき市出身で現福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任研究員という地の利を生かして、現地のリアルな声を取り上げています。荻上チキや古市憲寿といった新進気鋭の論客との対談も収録しています。

■福島第一原発事故

『ホットスポット: ネットワークでつくる放射能汚染地図』

NHK ETV特集取材班／著 講談社 2012.2 LS543.4/N14/1

NHK教育テレビで平成23年5月に放送された同名番組をまとめたものです。原発事故直後から取材を開始、木村真三博士と岡野眞治博士が放射線測定に尽力、福島市や飯舘村の当時の状況と二本松市の除染の取り組みが書かれています。原発事故当時30km圏内で取材を行なった貴重な記録です。文化庁芸術祭大賞、早稲田ジャーナリズム大賞、日本ジャーナリスト会議大賞受賞番組。

■文学・体験記

『F(エフ)』

松田 健次／著 いまあじゆ 2012.3 LS369.31/M13/1

原発事故の影響で物流が滞りがちだった4月当時のいわき市。そこに様々な物資を満載し、レンタカーを自ら運転していわき市に訪れボランティアをした江頭2:50。その行動力は話題になりました。この本は、江頭と行動を共にした放送作家が執筆。美談として受け止められた行動の内幕や、摩訶不思議な江頭のキャラクターが現地でも笑いを誘っていたことが分かります。

■メディア 報道 写真集

『福島民報縮刷版 東日本大震災特別編』

福島民報社／編 福島民報社 2011.6 LS369.31/F2/3

平成23年3月12日(一面見出し「巨大地震県内45人死亡370人不明」)から4月30日(一面見出し「警戒区域の9市町村 一時帰宅時期決まらず」)までの福島民報の震災関係記事を冊子にまとめたものです。読者に伝えようと尽力した記者たちの思いが伝わる、後世に残る一冊。

『プロメテウスの罫 明かされなかった福島原発事故の真実』

朝日新聞特別報道部／編 学研パブリッシング 2012.3 LS543.4/A1/4

朝日新聞に平成23年10月から連載された同名記事を書籍化したものです。当事者や研究者への取材をまとめ、原発事故直後に起きていたことを明らかにしました。初めて知る内容も多く、連載の当初は利用者の方から問い合わせをよく受けたり、インターネットでも話題になりました。

■各組織の震災対応

『検証新ボランティア元年』

笠虎 崇／著 共栄書房 2012.3

震災後、浜通りの避難所や仮設住宅をたびたび訪れ取材したブログが書籍化された本です。ボランティアの功罪、仕事や家を失ったことで自立心も喪失しまった一部の被災者の現状、無料で貰うことに慣れてしまう怖さなど、シリアスな内容が書かれています。

『人を助けるすごい仕組み:ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか』

西條剛央／著 ダイヤモンド社 2012.2 369.31/サタ 122/

早稲田大学で教鞭をとる仙台出身の著者が、専門である心理学と哲学、そしてインターネットを支援の仕組みづくりに活用した記録集です。「家電[配布]プロジェクト」で、夏に6千家庭に扇風機を配布、「重機免許取得」では、121名(現在は500名超)が免許を取得し就業して復興に取り組んでいます。前向きになる一冊。

『東日本大震災 語られなかった国交省の記録』

道下 弘子／著 JDC 出版 2012.7 369.31/ミ 127/

東日本大震災は、広大な被災地を生み出したが、国土交通省はどのような復旧対応をしたのでしょうか。本来の道路港湾の復旧のみならず、震災直後から被災自治体に職員を派遣し(リエゾン)、必要な物資の調達をも担いました。県内は相馬市といわき市の事例が掲載されています。

■医学・健康

『低線量汚染地域からの報告:チェルノブイリ 26 年後の健康被害』

馬場朝子, 山内太郎／著 NHK 出版 2012.9 493.195/ハ 129

平成23年4月に『ウクライナ政府報告書』が公表されました。この報告書をきっかけにNHK取材班はウクライナへ、現地の人々の声を聞きに行き、NHKのETV特集で放送されました。現地の人々が肌で感じている健康被害、ウクライナの現在状況、チェルノブイリ原発事故の影響をどう考えているか、これからの福島への教訓を含んでいます。

■復興・防災

『「東北」再生』

赤坂憲雄, 小熊英二, 山内明美／著 イーストプレス 2011.7 LS369.31/A6/1

明治以降日本は基幹都市への人や物の資源集中によって近代化に成功しました。東北は主に食料、労働力、そしてエネルギーの供給地としての一定の役割を担ってきました。震災以後もそれを維持するのか、あるいは違う形を目指すのかが今問われています。それを考える一助となる一冊。

■その他

『木造仮設住宅群』

はりゅうウッドスタジオ／制作 ポット出版 2011.12 LS527/H1/1

県内には1万5千戸超の仮設住宅がありますが、そのうち約三分の一は木造で、県産材を使用したり、ログハウス風の魅力的なものも多いです。本書からは、設計や建築に携わった人たちが、住む人により心地よく過ごしてほしいという熱い思いを持ち、活動していることが分かります。写真や図面も豊富で、建築という視点からも参考になります。